

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年4月10日

学校法人 聖和学園 旭ヶ丘幼稚園

1. 本園の教育目標「明るく 素直に 逞しく」

明るく…いつでも、どこでも、誰にでも挨拶のできる子ども。

素直に…人の話をよく聞く子ども。ありがとう、ごめんなさいが言える子ども。

逞しく…心も体も強い子ども。他人を思いやる子ども。自分のことは自分でできる子ども。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・「日々の活動の視覚化」… なわとび、マラソン、体操など、日々行う活動の表を作る等して子ども達のやる気を引き出し、継続していく。

・「創造遊びにおける評価基準の基礎を設ける」… 創造遊びにおいて、評価基準を作るために、遊びの発展の仕方や援助の仕方をより明確にしていく。

・「一人ひとりの個性に合った保育の実践」… 子どもたちを一様に見るのではなく、社会性を大切にしながらも、一人ひとりの性格やペースを配慮した保育を実践していく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	理由
1	日々の活動の視覚化	B	縄跳びなど表を作ることができず、また冬季になると回数も減ってしまった。冬季でもホールで継続していくなど工夫したい。 日々の気持ちを示す表を作成したことにより、その日の子どもたちの気持ちを可視化できた。
2	創造遊びにおける評価基準の基礎を設ける	B	行事等により創造遊びの時間が減ったりし、明確な評価基準を設けることができなかった。次年度、創造遊びをさらに展開できるような工夫をし、積極的に取り組んでいく。
3	一人ひとりの個性に合った保育の実践	A	自分でできることは、自分してもらうよう促し、どうしてもできない事を部分的に援助するように心がけた。また、職員同士配慮事項を共有し、柔軟に対応した。一人ひとりのできること、できないことを精査しながら援助をすることで、自立心を高めていく。

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	園児の気持ちに寄り添い、職員同士で情報を共有しながら、柔軟に対応した。しかしながら、継続的活動においては、なかなか取り組めず、表を作ることもできなかったため、継続できる活動を行い、可視化していく。また創造遊びの環境を整えながら、適切な評価と反省、また展開を実践していく。生活習慣等においては、手が届きすぎる面があるため、園児の自立性を高められるよう、援助する部分と、一人でできる部分を見極めながら保育を進めたい。

※3, 4の評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった。)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	計画的な遊びの提供と展開	週案にて、より豊富な活動内容を計画し、実践していく。創造遊び、戸外遊び等も具体的な計画を設け、遊びが発展するような促しをする。
2	園生活において、社会性を高め合う	個々への援助に偏らず、メリハリをつけながら、集団として活動を進めていく。また園生活において守らなければいけないルールを、朝の会や帰りの会等を通して、言葉や絵カードにて伝えていく。
3	保護者との連携	子どもたちの育ちを共有するために、日々の園生活での成長等を保護者に丁寧に伝えられるよう心掛ける。

6. 学校関係者評価委員会の評価

特に指摘する事項もなく、妥当であると認められる。

次年度も危機管理意識を持ち、引き続き園児と保護者に寄り添った丁寧な教育・保育を実践してほしい。